

比庵と笠岡

清水固（比庵の孫）

その1 清水比庵の心のふるさと笠岡

清水比庵は岡山県高梁市（当時は高梁町）に生まれ、生涯十数回転居しているが、その中で生まれ故郷の岡山県高梁市、芸術活動故郷の岡山県笠岡市、九年間町長をしていた栃木県日光市、そしてとわの住処となった東京都豊島区駒込がポイントである。

そのなかで生まれ故郷で名誉市民となった高梁市と、清水家の菩提寺（威徳寺）と妹の住居があり、且つ戦時中疎開していた笠岡市を自分のふるさとと言っている。

更に笠岡は妻との死別、疎開、川合玉堂との交流等があって六十歳代から本格的芸術活動に入り、疎開先笠岡から東京に移ってからは夏場数か月を笠岡の妹章子宅を中心に活動して歌、書、画三位一体の芸術を高めていった。比庵は笠岡は自分の心（芸術）のふるさとだと言っている。

比庵と笠岡を語る場合にその軸となるのは妹章子（神の島の別宅）と城山それに威徳寺である。

（1）岡本章子（比庵の妹）

章子は比庵と同じく歌と書をよくし、比庵は章子を通して多くの友人知人を得た。その代表的存在が笠岡に近いところに住む歌友の秋田秋良氏である。二人は言霊が通い合うような友情をもち、秋田氏あての比庵の手紙（絵葉書・歌葉書）をご子息が岡山市の吉備路文学館に寄贈し、之が「比庵歌だより」として出版されている。

章子の歌と書は川合玉堂からも高く評価され、章子の歌に玉堂が画をいれるという二人の合作が数点ある。

また晩年比庵が倉敷市安養寺の襖書を依頼されたときに、

新年・春・夏・秋・冬のそれぞれの歌を書き、余白に好きな自作歌として

いふところ よろしよろしと 声高き 茶のみばなしは 老のものなり

を書いたが、之はお互い耳が遠くなった兄妹の会話を詠んだものだと言っている。昭和四十年章子が亡くなった時に清水家の墓地に分骨しその墓石に比庵は次の挽歌を刻んだ。

あたゝかき 人にかこまれ 惜しまれて、且つ仰がれて しはわせにねむる 兄比庵

また章子の病（癌）が進行したのを知って見舞いに駆け付けた比庵の娘明子（私の母）に章子は次のように言い残している。

「私は比庵と三溪（比庵の末弟）のおかげで幸せに暮らしている。思う存分作品を楽しませてもらって嬉しい限りだ。比庵はうちの宝だよ。大切にしてくださいよ。」

章子は昭和四十年八月に他界したが、翌年正月の宮中歌会始めに比庵は召人に推挙された。そのとき比庵は次のように語っている。

「章がせめてもう半年生きていたらなあ。おれは章に一番見てもらいたかった、嬉しいニュースも知らずに逝ってしもうた。」

章子が亡くなってからは比庵は神の島の章子の家に二度と行こうとしなかった。笠岡滞在も一週間以内で、高梁をはじめ大勢のファンがいる色々なところに出掛けるようになった。

章子の没後比庵が装幀した章子の歌集「をかもみちも」が発刊された。



岡本別邸にて 39. 10. 20

(2) 城山（古城山公園）

比庵が笠岡居住時代とその後の滞在時代にひんぱんに散歩で訪れた場所が城山である。その時々のことを随筆駒込だより（笠岡滞在時には笠岡だより）に書き、また歌に詠んでいる。

比庵の笠岡をよんだ歌は多くあるが、そのなかでも城山の歌が一番多い。

城山の老松

城山の中で比庵が特に愛したのは山上の幹が山下の道の上へ傾き実に形の良い老松で、尾道の画家小林和作に勧められて八十歳頃から画き始めた比庵老松の原型となった。しかしのちに道路改修で伐られてしまった。この老松を詠んだ歌

山の上の 一つ老松 誰を待つ 年々に来て われは見にけり
ふるさとの 〃 〃 〃 〃

は比庵老松の画賛として多くの作品に使われている。



左 ふるさとの
一つ老松
誰を待つ
年々に来て
われは見にけり
八十比庵

右 山の上の
一つ老松
誰を待つ
年々に来て
われは見にけり
九十一 比庵

城山の歌碑

昭和三十七年（比庵八十歳）に関係者の熱意により城山の広場に比庵の歌碑が建立された。土地の石をという比庵の希望に沿って北木島の花崗岩から切出した紅水晶という石に直書きした。

城山の 上の廣場に たゞ射せる 朝日より見る 海のある町

このときは城山から海が見える状況だったが、昭和四十一年から笠岡湾の干拓工事が始まり海は見えなくなった。その計画を知っていた比庵は歌碑除幕式で次のように述べている

この歌は現在は「朝日より見る海」のある町の意味だが、近い将来埋立てで海は変じて町となるという笠岡発展に伴い「朝日より見るのは海のある町」との意味になる。即ちこの歌は笠岡の発展に伴って発展する歌である

という諧謔を交えて予防的説明をしている。

歌碑建立から半世紀経った平成二十五年（2013年）、地元の美術商豊池勇氏がこの歌碑の草稿を発見して笠岡市（竹喬美術館）に寄贈したこと、さらに同氏は翌年草木に覆われた歌碑の伐採・掃除の化粧直しをしてくれたので歌碑は五十年ぶりに脚光を浴びリニューアルされた。

2013年(平成25年)3月31日 日曜日 笠井 28

笠岡・井原圏版

清水比庵の草稿発見

笠岡・古城山公園に立つ歌碑

笠岡市ゆかりの歌人・清水比庵（1883～1975年）が、古城山公園（同市笠岡）にある自身の歌碑のため下書きした草稿が見つかり29日、同市に寄贈された。寄贈者で生前親交があった美術商豊池勇さん（63）＝同所＝は「比庵先生は笠岡を愛した偉大な歌人。地元と深い縁があったことを多くの市民に知ってもらえれば」と話している。（同井宏太）

高梁市出身の比庵は、が北木石に自筆で歌を記し、加工した。草稿は歌碑の町長を務めた。短歌とり、比庵が直書きに臨む前、書面を一体にした独自の、全体のバランスや書体を確認したとみられる。比庵の書面など約190点、草稿は、歌碑と原寸大の約1・8倍、横約1・1倍。「城山の上の廣場にたゞ射せる朝日より清水比庵」と記されている。今年2月、大阪市内で豊池さんが買い取った比庵作品約100点の中から発見した。歌碑は62年、地元住民でつくる笠岡比庵会が建立。設置にあたって比庵

古城山に設置されている歌碑

赤野住宅工房

http://www.akanojuku.jp

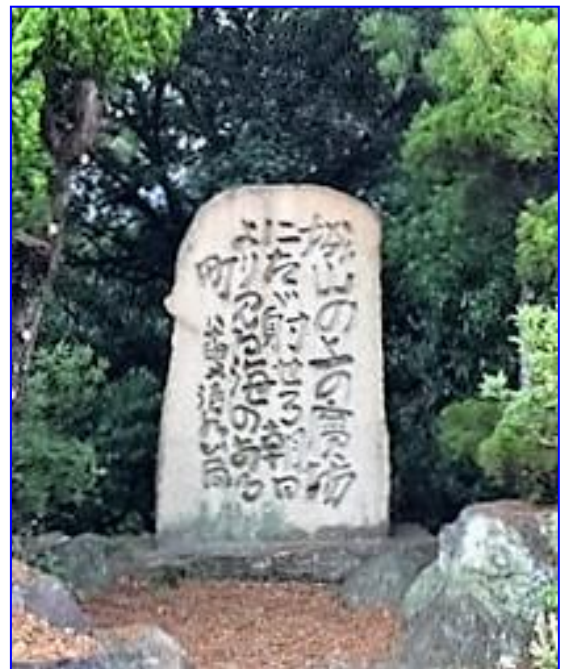
赤野住宅工房

点を収蔵する市立竹鶴美術館（同市六番町）の上園四郎館長は「石に直書きするという比庵のスタイルは知られていないが、下書きを用いたという話は伝わっていない。事前には丹念に準備をしていることが分かる貴重な資料」と話している。

この日は市役所市長室で贈呈式があり、豊池さんが草稿を三島紀元市長に手渡した。三島市長は感謝状を贈り「比庵芸術の理解に役立つよう活用しますとお礼を述べた。草稿は同美術館で保管、軸装するなどの後、公開する。

豊池さん 市に寄贈

三島市長（右）に発見した歌碑の草稿を見せる豊池さん（左）



草木に覆われた歌碑（左）は伐採して化粧直しされた（右）

(3) 威徳寺

比庵を埋葬した墓は三か所あり、それぞれ分骨されている。

高梁市松連寺（第三溪との共同墓地）、

東京都雑司ヶ谷墓地（比庵、娘夫婦、長孫を埋葬）

笠岡市威徳寺（清水家の菩提寺）・

清水家の菩提寺威徳寺には比庵の両親、比庵夫婦、比庵の上の弟郁夫婦それに妹岡本章子（分骨）の墓があり、寺の再建に尽くしたなどの功績により院殿大居士の戒名を貰っている。

また没後比庵の歌碑と梵鐘が境内に建立された。

清水家の墓は笠岡の某工場解体の際に取り壊した赤煉瓦を比庵が譲り受けて外塀をつくった。

また笠岡滞在中に城山等への毎日の散歩



の帰りにこの寺に立ち寄って住職と話をして寺の屋根の間から少し見える城山の景色を眺めたりしたと長田暁一住職が語っている。

比庵の没後に窓日短歌会が境内に建立した比庵の歌碑は之を詠んだものである

屋根の間に 城山の松 少し見え 涼しき月を 高く上たり 清水比庵

比庵の葬儀

昭和五十年十月比庵は九十三歳で天寿を全うした。仮葬儀を東京駒込の自宅に近い寺で行い、本葬は威徳寺で十一月七日に行われた。「清光院殿比庵禅徹大居士」が戒名である。

「境内いたるところに比庵の歌百首が草木花のなかに配置よく並べられたのが趣を添え、て如何にも三芸にあそんだ父を物語るようだった」

と娘明子が語っているように、花と歌に囲まれて大勢の参列者のもとで行われた。

七回忌も妹章子の一七回忌と併せて昭和五十六年威徳寺で行われている。



清水比庵七回忌・章子十七回忌 昭和56年(1981年)10月 笠岡市威徳寺

(4) 竹喬美術館と ワコーミュージアム

竹喬美術館は笠岡の生んだ日本画家の巨匠で文化勲章受章書、名誉市民の小野竹喬の市立美術館であるが、上菌館長が清水比庵研究の第一人者でもあり、しばしば清水比庵展を開催しており、また比庵芸術に関する出版物も多い。

- | | | | |
|-----|----------------|-----------------|---------------|
| 比庵展 | 昭和六十三年 (1988年) | 清水比庵 | 歌書画 |
| | 平成六年 (1994年) | 清水比庵 | 書を中心として (図録付) |
| | 平成十三年 (2001年) | 清水比庵 | 毎日歌境 (図録付) |
| | 平成十五年 (2003年) | 歌詠み清水比庵 | |
| | 平成十九年 (2007年) | さまざまな清水比庵 | |
| | 平成二十四年 (2012年) | 清水比庵の世界 | |
| | 平成二十七年 (2015年) | 清水比庵 | 没後四十年 |
| 出版物 | 平成十二年 (2000年) | 岡山の近代日本画 | 笠岡教育委員会 |
| | 平成二十一年 (2009年) | まどかなる清水比庵 (単行本) | 二玄社 |
| | 平成二十一年 (2009年) | 清水比庵短歌集 | (財) 福武文化振興財団 |
| | 平成二十五年 (2013年) | 現代の歌聖清水比庵 (文庫本) | 二鶴堂 |

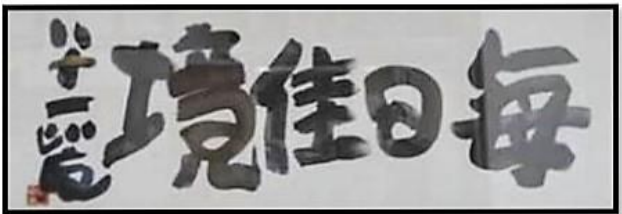
ワコーミュージアムは笠岡出身の実業家吉岡洋介氏が持つ(財)ワコースポーツ・文化振興財団が平成十年(1998年)市内の系列ホテルの中に設けた展示場で、笠岡ゆかりの芸術家を検証し

若い芸術家の育成目指している。現在は特別展の無い期間は比庵の作品を展示している。

追記 笠岡市に比庵作品贈呈（平成二十七年 2015年）

笠岡は比庵の心（芸術）のふるさとであり、多くの作品が竹喬美術館やワコーミュージアムにある。しかし市長室など市の行政を司る場所には何も無かった。そこで市長室と市会議長室にそれぞれ次の作品を寄贈した。

市長室に寄贈



市議会議長室に「寄贈



ふるさと(3)

ひさしくも 見ざりし海を ふるさとの かきみのごとき うみを見はらす 比庵